

## YA世代を対象とした取組

### <YA世代について>

10代は心身の成長に伴い、自他を意識し、社会や大人に疑問を抱いたり、悩みも多くなる時期です。近年13才以上のスマホ普及率は90%以上※となり、10代の多くは情報を紙媒体よりもネットから得るのが当たり前となっています。しかしトレンドとして流れてくる膨大な情報の真偽を確かめたり、自身の学びや生き方に直に関わる有効な情報を得るためには、より広く、より深く自ら問いを立て、その解を求める力が必要となります。それには過去から蓄積されてきた書籍や資料を活用することが有効であり、学校司書、司書にはその支援が期待されます。しかし部活動や勉強、SNS等で忙しい中学生が、自主的に読書に向かうには、読書を楽しいものと感じ、様々なジャンルの本に触れ、目的に応じて本を読むことができる読書環境が大切です。学校図書館、図書館等を計画的に利用し、読書を通して自己を向上させようとする姿勢を育むこと、そして目的に応じて本や文章等を読み、知識を広げ、自分の考えを深められることが求められます。

10代後半には、より大人に近づき、行動範囲が広がり個性が際立ってきます。社会へ繋がる機会が増える時期、生活環境の違いが学びや仕事上での格差となりがちな中、図書館を活用することで、格差にかかわらず、読書から自己実現できる生き方を考え、人生に立ち向かうヒントを見つけることもできるでしょう。予測を超えて変貌する社会で誰もが自分らしく生きていくために、本や情報を活用し、生涯にわたり学び直しや楽しみとしての読書と向き合う習慣を身に着けられるよう、この世代に対する働きかけが重要です。

※「令和6年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」総務省より